平成23年10月１日発行

教育学部 玄関

第 15 号

会　報

東北大学教育学部
同窓会仙台支部

アジア共同学位開発プロジェクトの発足

教育学研究科長・教育学部長　宮　腰　英　一

お彼岸を前に、なお残暑が収まらず、爽やかな秋空が恋しいこの頃です。同窓会仙台支部の皆様には日頃から多大なご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また３月11日の東日本大震災で被災された方々には衷心よりお見舞い申し上げます。教育学部・教育学研究科では、幸い学生、教職員全員の無事を確認できました。あれから半年余りが経ち、例年より１月遅れの５月６日に始まった第１学期も、補講期間を含め、９月22日に漸く終了します。

こうした中で、本年度より研究科の新規プロジェクト「東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究」を開始しました。この事業は国際社会で活躍する世界のリーダーを日本から、東北大学発のプログラムを通して育てることを目的としています。本プロジェクトは５ヶ年計画です。最初の３ヶ年で修士学位レベルの共同学位プログラム創設の可能性を探り、次の２ヶ年でパイロットプログラムの実施を予定しています。将来、創設された共同学位の成果や運用のノウハウを教育学系の他大学へ普及拡大を図ることを念頭に置いて取り組んでいます。

本プログラムは修士の共同学位を構想しています。修士課程の２年間を日本の大学のみならず、韓国、中国あるいはシンガポールの大学など、文化、言語、宗教などの異なる生活空間で他国の学生と共に学び切磋琢磨し、心身を鍛え、対立や葛藤、協調を経験しながら互いに敬愛し、アジアの共通課題に立ち向かう国際的リーダーを育成します。

本プロジェクトは大震災でスタートがやや遅れましたが、４月に運営及び実施体制を整え事務職員を雇用、７月16日に発足記念式典とシンポジウムを挙行、10月から専任教員と外国人客員教員の採用、また12月には国際シンポジウムを計画しています。今後目標達成に向けて、一つひとつ課題を乗り越えなければなりません。皆さんの更なるご指導、ご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

（平成23年９月16日）

平成23年度　総会のご案内

平成23年度の東北大学教育学部同窓会仙台支部の総会を下記のとおり行います。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

記

１．日　時　平成23年11月20日（日）午後１時
２．会　場　ホテルJALシティ仙台　２階
　　（アエルの西側）
３．内　容　①総　　会
　　②講　　話　講師 竹澤錬太郎 様
　　「山、未知は魅力」
　　③懇 親 会（会費5,000円）

大震災からの復興を願って

支部長　阿部　琢也（36年入学）

3月11日に発生した東日本大震災から半年が経過しようとしています。半年という時の長さは、人によって様々な受け止め方があろうかと思いますが、被害の大きかった沿岸部や放射線の恐怖に曝されている福島県の方々には、苦悩に満ちた、長い日々だったことでしょう。

そしてこの悪夢のような日々は、さらに数年、数十年と、先の見えない状態で続くであろうことを思うとき、心の痛みを禁じ得ません。

同窓会仙台支部の会員の皆様におかれましても、ご自身またはご親戚などで、家屋・家財の被害に遭われた方々が、少なからずいらっしゃることと拝察いたします。遅ればせながら心よりお見舞いを申し上げます。

さて、ご存知のとおり、仙台支部は昨年11月に「創立30周年記念総会・祝賀会」を開催致しました。当日は、教育学部・教育学研究科の諸先生方、関東地区同窓会の方々など多数のご来賓をお迎えし、100名を超す支部会員の皆様のご参加を得て、創立30周年にふさわしい盛会となりました。

記念講演では、日本方言学の権威でいらっしゃる、東北大学大学院文学研究科の小林隆先生から「言葉遣いに見る日本の地域差」と題するご講演をいただき、記念総会に華をそえていただきました。

祝賀会では、28年度理事桂島新一氏のお世話により、会員の高倉健氏等からご寄贈いただいた著作のプレゼントや東北大学オリジナルグッズが当たるお楽しみ抽選会などもあり、誠に賑々しく充実したひとときを過ごすことができました。

終わりに、大震災からの1日も早い復興をお祈り申し上げますとともに、仙台支部の一層の発展のため、皆様のご支援をお願い申し上げます。

後の祭り

池田　和夫（26年入学）

平成22年4月、初めての女性町内会長のもと防災防犯部幹事に選ばれました。1回目の役員会で、今年各部の重点事業を何にするかを話し合い、防災防犯部は「自主防災組織」の立ち上げと決まりました。すぐさま相棒の幹事と市内防災活動の先進町内会の「自主防災組織」を学ぶことにしました。当町内は開発して40年余、世帯の半数近くは入れ替り、人間関係が稀薄になりつつあります。私達は「自主防災組織作り」を地域作りのチャンスと捉えることにしました。

「天災は忘れた頃にやってくる」「備えあれは憂いなし」の見出しで、防災組織の必要性を訴えるチラシを全戸に配ると、たちまち反応がありました。「是非作って」と声かけられる始末。9月に役員会内の指名委員会で粗案を作成し、それを町内各層から選んだ委員に審議して貰いました。「自主防災組織準備委員会」です。12月第2回委員会の折、S委員から「貞観大津波　多賀城は？」が皆に配られました。その中に「津波堆積物の周期性と年代測定性から、津波は800年から1100年に一度発生していると推定されます。貞観津波から1100年余り経過、周期性を考慮するならば、仙台湾沖で巨大津波が発生する可能性が懸念されます」というショッキングな文言を発見しました。みなびっくり仰天し、委員会の作業に拍車がかかりました。12月末、委員会より会長宛に「自主防災組織細則」が提出されました。会長はこれを受けて、1月に所定の手続きをふみ、3月20日の総会の承認をえて、自主防災組織作りをスタートさせることとしました。

悲しいかな3月11日14時46分東日本大震災発生。その時、私は不幸があって登米市津山町に行って不在。自主防災組織なしで町内会役員が活動。1週間後に帰仙。自主防災組織の共助の限界を教えられました。3月20日の町内会総会で「自主防災組織細則」承認。後の祭りでした。

俳句との出会い

佐々木亀三男（32年入学）

古希に手が届く年齢の私に、俳句を勧めてくれたのは、Tさんだった。Tさんは、学生時代から句作に励み、2冊の句集を上梓している。程無く、Tさんから『かんたんな俳句の作り方』という自作の資料が送られてきた。初心者の私を慮ってのことである。資料を読んでいて、「俳句を作るということは、季節とともに生きることとも言えるでしょう」という文章に感銘を受け、共感を覚えた。先ずは、「やわらかな心で、身辺の諸々の変化を素直に捉え、五・七・五の17音に記録することが俳句作りの基本です」を基本姿勢として取り組むことにした。

俳句作りは難しかった。作ろうとしてもなかなか句にならない。やっとの思いで作っては、送り続けた。Tさんは、「五・七・五のリズムを正しく」「主観的、抽象的になっていないか見直す」「思い入れ、思い込みを避ける」「無理な省略は駄目」と、私の句に朱筆を入れ、懇切丁寧にコメントを書いて送り返してくれた。

暫くして、Tさんの句会に参加することにした。句会では、梔子（くちなし）、水棹（みさお）、妣（はは）、熟寝（うまい）など、読めない字や意味の分からない言葉が、頻りに出てくるのには困った。一方、普段使わない素敵な言葉に出会うことも多い。ふらここ、ねびまさる、掬ぶ（むすぶ）、手遊び（てすさび）など、限りがない。このような言葉を盛り込んだ句を作りたいと思いながらチャンスを待っている。

ふらここの朝一番の客になる

掬び飲む弘法清水秋の空

歳時記を読むのも楽しい。季語と例句を読んで感心している。まるで、たくさんの人の句集を読んでいるかのようだ。

今は、俳句を勧めてくれたTさんに感謝している。

30周年記念総会講演

創立30周年という節目を迎えた仙台支部総会は、11月7日、ホテルコムズ仙台において盛大に開催されました。30周年という記念行事でもあったためか、近年になく120名という大勢の参加者で会場は埋まりました。（途中略）

「言葉遣いに見る日本の地域差」と題し、本学文学研究科教授　小林隆氏が講演を行いました。

先ず、言葉遣いが地域差によってどんな面で現れるかを7項目の面から分析しております。例えば①話の最後に一言添えるか、添えないか（言語化）。②決まった言い方をする地域としない地域（定型化）。③出来事に関し細かく言い分ける地域と言い分けない地域（分析化）。④自己行為の宣言、相手行為への立ち入り、現場性の強い叫び（加工化）。⑤主観的に話す地域、話さない地域（客観化）。⑥言葉で相手を気遣う地域、気遣わない地域（配慮化）。⑦話を盛り上げる地域、盛り上げない地域（演出化）。

これら言葉遣いの差を支えてきた地域の社会的背景を東北・関東とそれ以西について具体例をもって話されました。言葉遣いから見た東北の特性（東北方言）など関心の高いご講演でありました。

※同期会報“双葉”14号に掲載された永野昌一顧問の文から転載。（写真：今野健氏提供）

訂正＆追記（会報第14号）

- 雪江美久氏の原稿　P4右段上から16行目
  内部志向的**技能**を → 向部志向的**機能**に
- 歴代教育学部長・教育学研究科長　P10右段
  ③中島太郎　昭和30年6月～昭和33年3月
  （塚田先生より1代ずつ繰り下がります）

仙台支部役員名簿

（平成21.10.4～平成23総会時）

顧　問	26	佐々木一洋	大学	宮腰	英一
	28	永野　昌一	31	雪江	美久
	36	岡崎　忠			
支部長	36	阿部　琢也			
副支部長	39	軍司　啓	39	渡邉	宣隆
参　与	24	岩淵昌次郎	24	富塚	英雄
〃	29	石森　幸子	31	枡澤	怜
〃	32	佐々木亀三男	33	佐藤	健仁
〃	35	伊藤　昭	39	大浪	榮一
〃	元学部長	菅井　邦明	元学部長	菊池	武剋
〃	同	荒井　克弘	同	細川	徹
理　事	24	佐藤　弘			
〃	25	髙橋　公正	25	静田	一
〃	26	三橋　亮一	26	池田	和夫
〃	27	青木　敏浩	27	佐藤	陽二
〃	28	小關　幸生	28	桂島	新一
〃	29	市川　宏	29	佐藤庸太郎	
〃	30	千葉　俊男			
〃	31	今野　健	31	沼田嘉一郎	
〃	31	渡邉　健夫			
〃	32	煤田　泰蔵	32	村上	重作
〃	32	竹澤錬太郎			
〃	33	金岡　昭房	33	山形美也子	
〃	34	河東田春樹	34	工藤	忠久
〃	35	泉　豊	35	岡本	幸子
〃	36	正木　競			
〃	37	賀屋　義郎	37	中川義二郎	
〃	38	文屋　優	38	文屋	國昭
〃	39	朴澤　徳昭	39	小野	守
〃	39	大竹　牧夫	40	吉野	信武
〃	41	安住　裕	48	櫻田	博
〃	50	別府　成裕	50	吉川	邦彦
〃	51	日下　毅	51	佐藤	邦宏
〃	52	白澤　利広	54	南城	一之
〃	57	川上　芳夫	H 4	吉植	庄栄
監　事	37	荒木　聰恵	48	笹田	博通
大学理事	48	笹田　博通	H元	神谷	哲司
事務局	37	關口　隆	39	大竹	牧夫
〃	50	吉川　邦彦			
会　計	29	石森　幸子	39	朴澤	徳昭
〃	35	岡本　幸子	37	佐藤	勝子

事務局だより

下記のように委員会を構成し、それぞれ活動を展開しております。

会則検討委員会

委員長	31	枡澤　怜			
副委員長	31	今野　健			
委　員	25	静田　一	28	桂島	新一

名簿作成委員会

委員長	33	金岡　昭房			
副委員長	35	泉　豊			
委　員	25	髙橋　公正			

会報発行委員会

委員長	27	青木　敏浩			
副委員長	32	佐々木亀三男			
委　員	26	池田　和夫	31	渡邉	健夫
〃	39	渡邉　宜隆			

会計委員会

委員長	29	石森　幸子			
副委員長	39	朴澤　徳昭			
委　員	35	岡本　幸子	37	佐藤	勝子

＜行事予定＞

5月15日（日）第1回役員会
8月28日（日）第2回役員会
11月20日（日）第32回仙台支部総会
1月8日（日）第3回役員会

◎会報15号をお届けいたします。ご多用の中、ご執筆いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
◎3月11日の東日本大震災は、多くの人々の生命や財産を奪いました。被災者の方々に心からお見舞を申し上げます。未曾有の大災害をきっかけに、この逆境を乗り越え我々の友愛の絆を一層固いものにしていきたいものです。

事務局（連絡先）
〒982-0807
仙台市太白区八木山南3－14－13
關口　隆　TEL 244－2091

※カットは枡澤　怜氏（31年入学）